

# もりおか mirai おでかけミーティング実施報告書

開催日時	令和7年11月20日（木）午後5時～午後7時			
開催場所	岩手大学 学生センターB棟1階多目的室			
出席者	野 田 尚 紀	佐 藤 明 彦	櫻 裕 子	中 村 雅 幸
	田 山 俊 悦	三田村 亜美子	鈴 木 努	工 藤 健 一
	竹 田 浩 久	池 野 直 友	寺 長 根 浩	伊 勢 志 穂
	村 田 芳 三	大 畑 正 二		
	岩手大学学生 17 人			

## 【開催内容】

野田尚紀議員及び佐藤明彦議員の司会進行により、櫻裕子 議長及び岩手大学 山本欣郎 理事・副学長の挨拶の後、「住み続けたいくなるまち 盛岡市 を目指して」をテーマにワールドカフェ方式による意見交換を行った。

参加者の所感等は次のとおり。

### 1 参加学生の所感

#### ○参加したきっかけ

- ・政治学ゼミでの紹介。
- ・政治学ゼミだったから。
- ・所属ゼミで参加指示があったから。
- ・ゼミで開催されることを聞き、盛岡市についてあまり考えたことがなかったため、考える機会が得られると思い、参加した。
- ・学生議会運営委員会に所属しているから。
- ・委員会での案内。
- ・学務課の方からお薦めされサークル（岩手大学まちづくりサークル NPCN）を代表して参加しました。

#### ○得られたもの

- ・盛岡市についてまだ知らなかったことや、話し合いの上での新たな視点などを得られました。
- ・盛岡市の良いところ・課題を整理できたこと。
- ・色々な人の価値観、考えに触れることができたこと。
- ・市議会の方とお話する機会はとても貴重なので、お話を伺えてよかった。
- ・単純に自分の住んでいる街について考える機会が今までなかったので、それが貴重な体

験となりましたし、盛岡市について自分が知らなかったことについて知ることができてよかった。

- ・盛岡市に対して普段思っていることや、こうだったらいいなという思いを、グループワークを通して共有できた。模造紙に可視化することで改めて盛岡市の魅力と課題を認識することができた。
- ・若者だけでも高齢者だけでも住み続けられる町の実現は難しく、両者が協力して共同で考えていくことが大切だと分かりました。
- ・他人から見た盛岡についての視点。
- ・ずっと盛岡に住んでいるために、見えない盛岡の課題を理解できました。
- ・盛岡のまだまだ知らない魅力を知ることができた。
- ・議員の方や他の学部の人など様々な目線からの盛岡の良いところ、改善したいところ、住み続けたい町のためのアイデアなどを理解できました。
- ・問題点に対して、様々な視点があることを学んだ。
- ・新しい視野や考え方、大学生の感じていることや実態がよく分かった。
- ・盛岡の現状とどうなればいいのか、今後の取り組みをどうすればいいかを考え、自分の考えを持つことができた。
- ・普段岩手県や盛岡にフォーカスして考える機会が無かったので、自分自身が岩手県の企業を知らなかったり、じゃじゃ麺を食べたことがなかったりなど、自分が気づいていない部分に気づくことができました。
- ・学部や年齢、役職による自分とは違う意見や考え方に触れることができた。また、自分の意見を表現することが苦手だったが、その練習になった。

### ○もり mira に対しての意見

- ・他のテーマ、もっと詳細な行政の内容でもやってみたいと思った。
- ・とても柔らかい雰囲気に参加しやすかったです！ありがとうございます！
- ・事前にいただいたポスターがスマホで読むと文字が紙面上からズレて読めなくなってしまったので、改善できそうであればお願いします。
- ・今回で出た意見が実際にどのように市政に反映されているのか実感できるようにするとより良いと思う。
- ・もう一回ぐらい席替えがあってもよかったかなと感じた。
- ・学生同士だけでなく、様々な年代の方とも話したい。
- ・今回話した人は2・3年だったので、1年生とも交流してみたい。

## 2 参加議員の所感

### ○参加しての所感

- ・子ども、若者の意見をまちづくりに生かすことの大切さを実感しました。
- ・大学生の率直な意見を聴く事が出来ました。今回の提言を市政に活かしていけるよう議員活動をしたい。
- ・学生の皆様のお陰で、愉しくできました。有意義です。未来への、ひらめきが沢山ありました。
- ・学生も活発に発言して良かったと思います
- ・学生さんの新鮮な生の声を聞くことができ、大変良かったと思います。
- ・現役大学生の日常生活の様子を何気無い会話の中から知る事が出来、考え方や意見を聞く事が出来て良かった。
- ・県外出身者の2年生と3年生の班だったので、在学中に盛岡を意識して暮らしてもらえそうだった。
- ・途中で『若者の県内就職』の話になったのですが、今、その施策を行う人たちが行っている県内企業を紹介するやり方（主に媒体）が待つはずれな部分があることに気づきました。指摘された施策は私も「良い」と思っていたものですから、非常に参考になりました。
- ・政治に興味のあるゼミの生徒なので積極的な発言があって良かった。
- ・初めての岩手大学でした。次代を担う学生の視点がとても新鮮でした。来年度から学長になられる山本副学長から今後も協力を惜しまないと、もり mira への理解を示していただき感激しました。
- ・アルバイトを休んだり、予定を合わせて参加した学生が多く、積極的な姿勢で臨む姿や地元で自宅から通う方、盛岡以外で大学入学を機に盛岡で生活する方など、様々な視点で盛岡を語る事が出来て有意義な機会になった。

### ○意見交換の内容やテーマについての意見

- ・「住み続けたいまち盛岡」というテーマは少し重いかもしれないと思いました。
- ・良いテーマだと思います。このテーマを継続して欲しいです。
- ・今の「盛岡らしさ」を守って欲しい！どこにも無いような、岩手大学をつくりたい。
- ・学生は毎年変わるので当面今のままでいいと思います。
- ・大変良かったと思います。
- ・「住み続けたいまち盛岡」と言うテーマが難しかった。
- ・教育学部3年生だが教員になるかを迷っている学生がいた。
- ・もう少し具体的なテーマ（人口の社会減をどうやって止める？とか観光客を増やすため

にはどうしたらいい？とか)を複数あげて、そこから選んで話し合うとかをやってみました。

- ・高校生議会の方が、面白いアイデアが出たと思う。道路が狭いとかバスの便が悪いとかの意見が出た。民間企業に関わる事項は議論にならない。
- ・議員にとっては毎年同じ内容で、ややマンネリ感もあるが、学生は毎年変わるのでこのままのテーマで良いと思う。ワールドカフェ形式も継続すべき。
- ・前はカードを活用したが、付箋や紙で、盛岡について語るのも良いと感じた。

### ○意見交換の中で、心に残った学生の意見や言葉

- ・皆さんそれぞれに、盛岡市の将来について真剣に考えて意見をあげて下さり感謝の思いです。
- ・都会過ぎず、田舎過ぎず、を多くの学生が感じていると実感した。盛岡が持っている良さを残しながら不足している部分を補って行きたいものです。
- ・自分の働きたい場所があれば、盛岡で暮らせる！盛岡にも、いっぱい仕事があって欲しい。
- ・バランスの取れた街と思うので変わらずに発展して欲しいと言った地元出身の学生がいました。
- ・自分の声で、街のこんなところがこうなったとか、実感できればより議会や行政を身近に感じることができる、との発言があった。
- ・政治を専攻している学生から、市民と議員と行政が信頼関係を構築する為にしっかり意思疎通するべきという意見を聞く事が出来た。
- ・秋田と青森の学生が、挨拶が少ないと言っており、近所でも年代間でも距離感が盛岡で生まれつつあるかもしれない。
- ・「ラジオは聞きません。ひとり暮らしだとテレビも見ませんね」という言葉。
- ・自然環境の良さを感じている学生が多かった。それを生かした行政になっていないと感じた。
- ・自分は岩手大学に進学してとても良かったと思っているし、できれば地元で就職もしたいが、希望する職種がないので大きな都市に行くという学生が多数いて、盛岡市の課題が浮き彫りになっていると感じた。
- ・盛岡で暮らす、学生生活を送ることを楽しみたい、その為にも盛岡が良い街になって欲しいという想い。

### 3 意見交換会の振り返り（当日の個人ワークより）

別紙一覧のとおり

【11.20】岩手大学 意見交換会振り返り（個人ワークより）

No.	「住み続けたくなるまち 盛岡市」はどんなまちですか？	そんなまちを実現するためにどんな取り組みが必要ですか？どんなことをしたいですか？
1	自然と商業施設が程よくあり、人があたたかく子育てしやすい町	これらの実現のために、地域ごとや年代別に「住みやすさアンケート」などを行い、欲しい施設やどうすれば住みやすくなるかを調査する取り組みが必要だと考えます。
2	自然が豊かであり、様々なイベントや商業施設、仕事の選択肢のある町	今ある資源を活かすこと、色々な人から意見を取り入れることが必要だと思います。
3		岩手大学内にJOBドーム（イオンみたいな集まるところ）。→ここに行けば、仕事みつけれれる、イイナ。仕事探しができる。 盛岡に来た学生たちが、盛岡にびっくりする「何か」が必要です。学食が無料とか、地元産のおにぎり1ヶ無料とか。 各地にインスタやカメラの「スポット」できれば。岩手山、川がみえる。
4	都会過ぎず田舎過ぎず、趣のあるまちの保存 希望する就職先、そこでの福利厚生の実	むやみに都会化せず、暮らす人々とたくさん意見を交わすなどしてバランスをみながら発展させる。 賃金が高い。労働環境が良い。
5	子どもから老人までやさしいまち	行政、民間しっかり連携する事が必要 多くの産業を集める施策が必要
6		インフラ整備の充実、子育て支援・移住・定住支援と医療分野・福祉・教育分野と各分野ごとに取り組むべき課題がある。⇒それらをつなげて取り組んでいくことが必要。【生活】在学中の生活支援→【教育】岩手大学の入学者を増やす←【雇用】卒業後の進路の選択肢を増やす
7	子どもから高齢者まで世代を問わず、性別・病気・障がい・特性・属性等を問わず尊重され、まちづくりに生かされ、住みやすくなっていくまち	行政や議会が市民の声を聞く機会をもっと増やして（子ども・若者・学生さん…）具体的に政策に生かす仕組み
8	賃金が高く、職業選択が充実しており、働きやすいまち 自然豊かで、生活・子育てがしやすいまち 交通の便が良く、困らないまち	十分な管理、運営
9		自然と適度な距離でつきあうことができれば、今の盛岡にある都会と田舎のちょうど間のような自然豊かなまちのままでいられる。今まで行ってきた川岸の整備や山際の対策を続けられたら維持につながる。最近クマが問題となっていますが、引き寄せる要因になるものを調べるところから。 心に余裕ができれば地域の「いい人」が増えてくれるのでは。見つけた付き合いの中で人間の活動を広げる。 住み続けたくなるには心の余裕（移動・お金・自然など）が持てる所であるように。余裕を作るための余裕を得られる状態を作れたら良いと思う。
10	賃金が高く、仕事の選択肢が多い イベントや名所など住んでいて楽しい 物価が安い 交通に困らない、お店が多いなど不便が少ない	財源の確保 盛岡市の強みを生かすイベント
11	都会すぎず、田舎すぎず今のままの盛岡を残しながら足りないところを少しずつ補足していく盛岡	市民の意見に耳を傾け進んでいく！特にこれから日本を背負って立つ若者の意見を大事にして行きたい！
12	自然・歴史・文化が失われることなく、都会になりすぎないようなまち 人のつながりを大切にして、活発に意見交換や情報共有が行われるようなまち	若い世代も含めて今回のような意見交換や情報共有のできる場を増やして、みんなで足りないところを考えていく必要があると思う

【11.20】岩手大学 意見交換会振り返り（個人ワークより）

No.	「住み続けたいくなるまち 盛岡市」はどんなまちですか？	そんなまちを実現するためにどんな取り組みが必要ですか？どんなことをしたいですか？
13	交通手段が多く、行きたい場所に行きやすい。 様々な年代の人が働きやすい環境がある。 自然と街が調和している。	バスの本数を増やす。道路を舗装する 若い人に岩手・盛岡の企業を知ってもらう 自然・人・文化が調和するよう、それぞれを守っていく
14	住みつづけられるまち	「若者の働く場を増やしていかなければならない」問題はかねてから議会でもずっと話されてきた課題だが、今日のもりみらを通して「学生さんたちに県内企業の紹介がいきわたっていない」ことに気付いた。これは以前から、ずーーーーーっと言われていたことなのに未だ解決していないということはこの問題に対する調査がなっていないということだと思う。あらためて、学生の興味、関心の調査等からはじめるべきではなかろうか。
15	人々がやさしく親切的な町 犯罪が少なく安全な町 空気がきれいで、ゴミが落ちていない町 経済的に豊かな町 何度でもチャレンジが出来る町 インフラが整っている町	
16	子どもや高齢者が住みやすく、気軽に行政と意見交換しあえるまち	①意見交換をする場を増やす ②住民側も参加しようという意識付け ③若い人が参加しやすいように（例：学校教育に取り入れる）
17	活気ある街	人との関わり、コミュニティが持続する キレイな町（ごみが少ないなど）であり続ける スポーツが盛んである 中心市街地・商店街（→空きをなくす）を大事に（衰退させない）
18	住民の意見が自由に言えて、行政がすぐ対策を実現できる町 歴史を大切に今風にマッチングさせられる手段ができる町 美味しい食べ物が沢山ある町 努力が実る風土を育てる町 市民の意見が実現できる町	
19		今日、岩大生と話をして感じたことは、学生・若い方がアイディアを出してそれを少しでも実現出来ること。一緒に考えながら、将来のもりおかを描いていくことが、住み続けたいくなるまちの一步だと感じた。先輩方とも同様だと思う。その中で課題、今起きていること（熊など）も取り組んでいけばいいと思う。
20	夢を叶えられる職種がたくさんあり、子育てや家庭をもちながらでもキャリアアップできる街 家族だけでなく、隣近所などの地域コミュニティで日頃から助け合える環境が整っている街 公共交通や除雪が行き届いている街	世代を超えて意見を出しあえる機会を多く作ることが大事だと思います。

【11.20】岩手大学 意見交換会振り返り（個人ワークより）

No.	「住み続けたくなるまち 盛岡市」はどんなまちですか？	そんなまちを実現するためにどんな取り組みが必要ですか？どんなことをしたいですか？
21	”イマ”を大切に、もっと便利な街 自然や歴史、人々など今、盛岡にあるものをそのままに、大切に守りながらアクセスしやすい街	環境に配慮した都市開発 歴史的建造物の保護 新しい人を受け入れるだけでなく、今住んでいる人の声に寄り添う 交通の便を増やす（知らないのはもったいない！！）
22	衣食住医老幼に不安がなく住める街 困り事を一緒に解決してくれる街	行きたい学校がある 学びたいことが学べる 生活に困らない給料が出る 仕事がある 病院に行って治療ができる 自分が居てよい場所がある 自分が役に立っていると実感できる 仕事を休んでも取り戻す余裕がある 子どもが産める 子どもがゆっくり育てられる
23	人と人、歴史、自然が調和するまち 外に出てもいつでも帰ってくるという選択肢に残り続けられるまち	文化財の保護を強くする 地域毎の取り組み（町内会）を多くする 企業誘致だけでなく地元のお店を支援する 子どもを産み育てやすい支援 岩手山、姫神山、早池峰山、南昌山がどこからでも見れる
24	あきないまち（遊ぶ場所、観光地） 非日常を味わうことができるまち	
25	働き先がたくさんあったり、自然や都会が融合したりといった全世代の人が住みやすいようなまち 「自分のまち」を意識できるまち	しかし、こんな要望を持っても実現できなければ意味がないから、市と住民が協働して参画できることが一番だと感じました。住民は市に意見や要望を言う、市は住民のニーズを知ろうとする工夫があることが大切だと思います。
26	住民と行政が気兼ねなく意見を言い合える「自分の自分たちのまち」と言える盛岡市	様々な場面、例えば定例議会前に市民の方々との話し合いの場を積極的に行う
27		仕事の選択の幅を広げる 行政と住民の距離を縮める
28	市民の声をたくさん拾ってくれるまち	市民の声が反映されれば、市民は「自分たちもまちづくりに参加しているんだ！」と実感することができ、さらに盛岡市のことが好きになって、住み続けられると思う！ 市民と議員が直接話せる場を設ける。広報。
29	良いものを現状維持できて、住民の声が行政にしっかり反映される「自分のまち」である盛岡市	市民の声を拾い上げられるしぐみを維持すること 市民が主体として関われる機会確保